岩手県総合計画審議会
第４回岩手の仕事部会

（開催日時）平成 30 年５月 29 日（火）10：30～11：50
（開催場所）サンセール盛岡　２階　福来（南）

１　開　会
２　議　事
（１）部会長及び副部会長の互選について
（２）次期総合計画中間答申（案）について
（３）その他
３　閉　会

出席委員
五日市知香委員、黒沢惟人委員、谷藤邦基委員、千田ゆきえ委員、森奥信孝委員、八幡博文委員、林晶子委員

１　開　会

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長　それでは、時間になりましたので、ただいまから岩手県総合計画審議会第４回の岩手の仕事部会を開催いたします。

私は、事務局を担当いたしております政策地域部副部長兼政策推進室長の小野でございます。暫時進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

では、着席して進めさせていただきます。まず、議事に入ります前に、本日の審議の概要など会議の進め方につきまして御説明申し上げます。

資料１を御覧いただければと思います。資料１でございます。今回の仕事部会の審議の概要がございますけれども、まず議事の１といたしまして、部会長、副部会長の互選でございます。これは、総合計画審議会の委員が４月からの第 20 期を改選いたしまして、その後初めての部会ですので、部会長、それから副部会長を選出するものでございます。

なお、皆様、メンバーは同じでございますので、そこは基本的にはこれまでから継続してお願いしたいというふうに考えております。

それから、議事の（２）でございますけれども、中間答申（案）につきまして、事務局から概要を御説明いたします。

意見交換いただく時間を長くとりたいと思いますので、説明のほうは簡潔にさせていただきます。特に当部会では仕事・収入、それから人材育成などの教育、社会基盤などについて中心に御説明させていただきます。

それから、（３）といたしましてその他、委員の皆様から御意見などがありましたら御発言をお願いしたいと思います。

なお、本日の部会での御議論につきましては、11 時 25 分を目途に一旦休会とさせていただきまして、前回の部会、審議会の際も同じなのですけれども、１枚のパワーポイント、スライド１枚にまとめる形で事務局で取りまとめをさせていただき、それを委員の皆様に

御確認いただいて、午後の総合審議会本体の際に部会長のほうから御報告いただくというような形をとりたいと考えております。
本日の進め方については以上でございますけれども、何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

「異議なし」の声

２　議　事
（１）部会長及び副部会長の互選について
（２）次期総合計画中間答申（案）について
（３）その他

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長　それでは、議事に入りたいと思います。
まず、議事の（１）の部会長、それから副部会長の互選についてですけれども、先ほど申し上げましたように審議会委員の改選がございましたので、これに伴い改めて行うものでございます。
本来でございましたら、部会長選出までの間、仮の議長などをどなたかにお願いするところでございますけれども、便宜的に事務局のほうで議長役を務めさせていただきたいというふうに思いますが、よろしいでしょうか。

「異議なし」の声

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長　ありがとうございます。
それでは、御提案申し上げます。事務局といたしましては、引き続き部会長を谷藤委員、それから副部会長に五日市委員にお願いしたいというふうに考えておりますけれども、いかがでございましょうか。

「異議なし」の声

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長　ありがとうございます。
それでは、部会長を谷藤委員に、副部会長を五日市委員にお願いいたします。
部会長のほうから御挨拶をお願いいたします。

○谷藤邦基部会長　ただいま部会長に選任いただきました谷藤でございます。総合計画審議会の委員の改選があったわけですが、当部会に関しては全く変わりないので、県の事務局の方も肩書きは変わったようですが、顔ぶれもほぼかわりなしということでございますので、議論の継続という意味ではこれから非常にスムーズにやっていけるのではないかなと思いますので、引き続きよろしくお願いしたいと思います。
以上でございます。

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長　それでは、これ以降の進行につきましは谷藤部会長のほうにお願いいたします。

○谷藤邦基部会長　それでは、議事（２）の次期総合計画中間答申（案）に入ります。
はじめに、事務局のほうから説明をお願いいたします。

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長　それでは、資料に基づきまして御説明申し上げます。
はじめに、資料３を御覧いただきたいと思います。岩手県次期総合計画の基本的方向に対する中間答申（案）と記載している資料３、Ａ３の横、１枚物でございます。こちらを御覧いただきたいと思います。
昨年度来、この件につきましては何度か御説明申し上げておりますので、変更のあった点を中心に御説明したいと思います。
「はじめに」のところにつきましては、これまでも基本的な計画のつくり方、枠組みといったことで書き込んでございます。
なお、点線で示しておりますけれども、「はじめに」については計画の枠組みとなりまして、県で準備するものでございますので、中間答申には含まれないという形になります。
それから、第１章、理念のところにつきましては、１つ目の時代的背景のところで、地方の暮らしや仕事を基点とする政策への転換、地方が主役の時代と言われておりますけれども、なかなかそうなっていない現状を踏まえまして、時代背景として書き込んでいると、「幸福を守り、育てる」社会を岩手から創り上げることが大切と書いております。
岩手県における背景といたしまして、復興の取組の中で培ってきた「幸福を守り、育てる」姿勢と、これを岩手県全体に広げていくといったことでございます。
３の計画の理念でございますけれども、幸福を追求していくことができる地域社会の実現を目指すといったことでございます。
さらに、３の３つ目のポツですけれども、新たに加えました社会的包摂、これはソーシャル・インクルージョン、さまざま弱い立場にある方も含めて、社会の中に包み込んでいくような施策をとりましょうといったのが社会的包摂、ソーシャル・インクルージョンの考えでございまして、中心には地域の福祉関係とかそういったところでよく使われておりますけれども、福祉に限らず、コミュニティーの問題、さまざまございますけれども、それを含めてこういった考え方を打ち立てていきたいということでございます。
それから、４も新たに加えております。国連でＳＤＧｓという考え方、これは持続可能性を世界でゴールとして設定していきましょうといったことで、国連サミットのほうで誰一人として取り残さないといったことを理念とする考え方がございまして、これを世界的に推し進めていくといった動きがございます。
全国では、長野県の計画などもこのＳＤＧｓの考え方に基づいた計画をつくっているといったこともあります。実は、このＳＤＧｓなのですけれども、17 のゴールがありますけれども、これが幸福度のほうの 12 の領域とかなりかぶる部分もございますので、ここは基本的に通じるものであると、今回の幸福度に通ずるものであるといったことで、ここにあえて書いているというところです。

それから、第２章につきまして、岩手は今といったところで、現状認識、展望を書いております。これについては、後ほど柱ごとに御説明申し上げます。

大きく世界の中では、グローバル化、第４次産業革命、そして地球環境問題への対応、基本の中では人口減少を中心に、そして地方の役割の変化、それから大規模災害、価値観の変化、そして岩手では人口減少、復興、そして（３）といたしまして、岩手の可能性、これは８＋１、第５章の政策推進の柱ごとにそれぞれの分野の層と強み、弱み、リスク、チャンス、これをまとめております。これについては後ほど御説明いたします。

右側、第３章の基本目標ですけれども、これにつきましては、今回さまざま御意見を頂戴し、次回の中間答申において設定していただければと思っております。

これまでの総計審の中では復興、これをしっかり引き継いでいく、そして幸福をテーマにする、そして希望郷いわてといった表現についても引き続き使っていってはどうかといった意見も頂戴しているところでございまして、これらをキーワードに基本目標をつくっていきたいというふうに考えております。

第４章、復興につきましては、復興計画にありました安全の確保、暮らしの再建、なりわいの再生、３の（１）から（３）までございます。これに新たに１つの柱を加えます。（４）として、未来のための伝承・発信、この考え方、柱を加えまして、４つの柱に基づき、復興を最後までしっかりと進めていくといったことでございます。

第５章、政策推進の基本方向につきましては、先ほどお話しした 12 の領域をもとにした８＋１、９つの政策分野に基づく取組をつくっていくといったことでございまして、例えば１つ目、健康・余暇については、その先にサブタイトルをつけております。「～健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、また、それぞれの嗜好に応じて自由な時間をたのしむことができる岩手～」というふうに掲げまして、それをもとに具体的な取組項目を掲げていきます。後ほどこれについても御説明いたします。

また、当部会が中心となります（６）仕事・収入につきましては、「～活力のある産業のもとで、安定した雇用が確保され、また、やりがいと生活を支える取得が得られる仕事につくことができる岩手～」というサブタイトルを掲げて、取組を具体的に盛り込んでいきたいというふうに考えているところでございます。

次に、２ページ目を御覧いただきたいと思います。第６章、ここでは先ほどの第５章の８＋１の政策、これはいわばしっかりと着々と進めていく政策でございます。これに加えて、新たな岩手を切り拓いていくためのプロジェクト、これを掲げていきたいと思っております。

具体的なテーマ、中身につきましては、今後さらに議論を進めていくことになりますけれども、中間答申の段階では大きな考え方のみをお示しいただくような方向で事務局は準備しております。キーワードといたしますと国際リニアコライダー、それから水素エネルギーの活用や再生可能エネルギーなどの循環型地域社会、それから第４次産業革命によるイノベーション、それらを活用した産業面、それから社会生活分野での課題解決、こういったものを重要構想として具体化し、掲げていきたいと、いずれこちらについては 10 年間あるいは 10 年を超えるような大きなプロジェクトを掲げ、それらの実現に向けて、例えば初めの何年間ではここまでしっかりつくりましょう、最後の 10 年あたりまでにはこういった姿を描きましょうという、できれば夢のあるようなプロジェクトをつくっていきたいと

考えております。

第７章では、県央、県南、沿岸、県北、４つの広域圏ごとの振興、それから県北、沿岸振興、さらには４つの広域圏、さらに県域を越えた広域的な連携、これらについて展開方向を盛り込んでまいります。

特に４広域圏については、４つの広域圏、それぞれで懇談会などを開催して議論を進めているところでございます。

最後、第８章については、こうした次の計画を進めるに当たってのマネジメント、行政経営の基本姿勢として４つのポツ、１つ目は県民本位の行政経営、そして２つ目は職員の育成、そして組織としての高いパフォーマンスの発揮、最後は経営資源を最大限の活用と、これらを進めることによって、次期総合計画を効率的、効果的に進めていこうというようなことでございます。

資料３については以上でございます。

次に、資料２にお戻りいただきたいと思います。ここでは、８＋１の政策の柱ごとに時代展望、潮流、それから具体的な取組の方向性などをお示ししているところでございます。

８＋１ですので、健康・余暇から始まりまして、９つございますが、当部会に関係するところでは、例えば３ページ目を御覧いただきたいと思います。家族・子育てです。仕事・収入においても家族・子育てといったのは非常に重要な分野でございまして、例えば日本の変化の中で見ますと、一番後ろのポツですけれども、左側、日本の変化の一番下のポツ、多様な働き方が可能になる働き方改革、それからこれ国のほうの取組ですけれども１億総活社会の環境づくり、そういったものの取組が進んでいるといったことがございます。こういったものも踏まえて、特にワーク・ライフ・バランス、働き方改革、こういったものを進めていくといったことが仕事面においても重要になってきていると考えます。

それから、次の４ページのところに上から２つ目の白丸、仕事と生活を両立できる環境をつくります。家族・子育てのほうでもこういう観点で取組を進めるといったことでございます。

それから、次の教育関係についても重要な要素があるというふうに考えております。５ページ、教育でございますけれども、右側のほうの岩手の可能性のところでございます。弱み・リスクのところに、県内学卒者の県内就職割合が横ばいであるといったことがあります。県内に勤めたいと思っている学卒者の皆さんが多いにもかかわらず、結果的に３割を超える学卒者の皆さんが県外に出ていっているというような状況がございます。

そういったものも踏まえまして、次の６ページのところでございますけれども、左側下のところで、岩手で、世界で活躍する人材を育てますといったところで、さまざまキャリア、下から３つ目のところでのいわてキャリア教育指針による学校のときからのキャリア教育の推進でございますとか、その下、専門人材の活用あるいは教材の工夫などによるライフデザイン能力の育成、それからその下、専門的になりますけれども、科学技術への興味・関心を高める取組、イノベーションを創出する人材の育成といった点、右側のほうに行きますと上から２つ目の白丸、産業を発展させる人材を育てますといったところで、各分野ですね、ものづくり産業、それから農林水産業分野での人材育成、さらにその下、一番下の丸については、高等教育機関における人材育成といったところについても次の計画に盛り込みたいというふうに考えております。

それから、飛んでいただきまして、11ページでございます。11ページがまさに中心になります仕事・収入の分野です。活力ある産業のもとで、安定した雇用が確保され、また、やりがいと生活を支える所得が得られる仕事につくことができる岩手といったことで、特に岩手の可能性、右側のほうですけれども、さまざま、強み、リスクを掲げております。強みは既に御覧いただいているとおりでございます。ただ、弱みのほうではこれまでの部会のほうでも大きく議論になっております人手不足といった点、あるいは後継者不足といった点を中心にリスクを含め、弱み・リスクということで整理をしております。

それを踏まえた取組の方向性といたしまして、それ以降、ここの説明に全てかかわりますので、説明は省略いたしますけれども、１つ目のポツでは多様な働き方ができる環境をつくりますといった考え方、次の12ページに行っていただきまして、ここは商工関係になります。中小企業の支援、それから２つ目の白丸、ものづくり産業を盛んにするといった点、３つ目の白丸、地域の資源を生かした産業でございます。

その下は観光産業の考え方についての項目、右側のほうに行っていただきますと、農林水産業分野でございます。経営体の育成、それから収益力を高める、３つ目の白丸については、農林水産物の付加価値を高め、販路を広げる、そして最後のところは農山漁村をつくるといった環境網ですね、そういったところについて掲げております。

さらに、これ以降でも幾つか当部会に関するところがございまして、例えば次の13ページのところですけれども、ここは歴史・文化の関係でございます。歴史・文化のところの取組の方向性、最後のところでございますけれども、豊かな歴史や伝統、文化を生かした交流を広げますといったところで、やはり文化財を守る、保存するといったところから活用するといったところも今後大きな視点になってくるというふうに考えておりますので、そうしたさまざまな文化、伝統を生かす、それによって観光を初め、交流を広げていくといったところを盛り込んでいきたいというふうに考えております。

最後に、９つ目の柱になります。15ページのところで社会基盤を書いております。社会基盤のところでは、岩手の可能性のところを見ていただきたいと思いますけれども、１つ目、強み・チャンス、リニアコライダーの観点、２つ目のところ、大学による産学官連携の背景としては農林分野、これはものづくりも含みますけれども、ＩＣＴ利活用などといったところについて強みといったところで書いております。

一方で、弱みのところは一番下のポツですけれども、若者の県内企業に関する認知度の低さなどによる若者の県外への流出、これはこれまでの当部会でさまざま御意見を頂戴しているところでございます。弱み・リスクとして掲げております。それらも踏まえて取組の方向性として書いてございます。

最後の白丸になりますけれども、男女共同参画、若者・女性の活躍を高め、いずれ一旦外に出た方々も魅力に思える岩手、こういったものをつくっていきたいといった観点でここに掲げているものでございます。

資料の３については以上でございます。

それから、幾つか資料ございますので、簡単に御説明申し上げたいと思います。次が資料の４でございますけれども、資料の４は今申し上げました概要に基づいて、中間答申案いったことで冊子全体をお示ししているものでございます。今御説明した内容が詳しく載っているといったことで、全体で40ページものになっております。説明については省略を

させていただきます。

それから、資料５についてでございます。これまでの意見の反映といったことで、当部会で頂戴したこれまでの意見に対する反映状況を書いたものでございます。仕事部会につきましては、めくっていただきまして、５ページ以降になっております。５ページから７ページまで、いただいた意見に対して、先ほど申し上げましたこの中間答申案にどのようなところにそれの意見を盛り込んでいるかということで整理をいたしました。これについても説明のほうは省略をいたします。

次に、アンケート関係２つございます。簡単に御説明いたします。まず、アンケート、資料６ですけれども、次期総合計画策定に向けた県民意識調査、5,000 人調査をこの１月、２月にかけて調査いたしました。特に下のところ、１ページの下半分のところなのですけれども、「現時点」で幸福を実感していくために重要だと考える項目、それから「これからの 10 年」で特に改善することが望ましい項目、この２つをとっております。10 年間の計画、長期計画を立てる上でこれからの 10 年で特に重要な項目といったところが重要というふうに考えておりますので、その差を見るといったことで、このアンケートをとったところでございます。ですので、棒グラフにそれぞれございます。８＋１の項目ごとにグラフございますけれども、そこの濃いほうが現時点、そして薄いほうがこれからの 10 年、特にその差の大きい部分について着目していただきますと、これから 10 年で力を入れて取組を進めていかなければならない部分がわかるかというふうに思います。例えば健康分野ですと、現時点ですと一番上に適切な診療・治療が受けられるというふうにあります。これは絶対数、割合を見ても将来的にも重要というふうに考えております。

一方で、将来的に重要となってくるもの、特に特徴的なものは真ん中あたりになりますけれども、健康維持に向けた指導の受けやすさ、長い目で見るとこういったところもこれから手をかけていくことが重要です。

その下の余暇については、変化といったところで見ると、余暇を楽しむ機会の充実、これがこれからの 10 年の中で現時点とは違って重要ですよねというような差が出てきている分野というふうに思います。

以降、説明は省略させていただきますけれども、絶対値といいますか、全体の中での割合多い、一番重要なのはやはり重要と思っておりますし、プラスその差が出てきている部分、これが長期的に手を入れていかなければいけないといった部分で重要というふうに御理解いただければと思います。

それから、資料の７については、昨年度、これは総合計画審議会本体のほうで 18 歳といいますか、生徒、学生さんを対象としたアンケートも行ったほうがいいといった御意見でございましたので、それに基づきまして、それを踏まえまして、県内の中高生を対象としたアンケートを行いました。その結果の概要が１ページでございます。見ていただきますと現在の幸福度、愛着、それから住みやすさといったところで、おおむね６割ぐらいの方が肯定的な意見といったことでございます。

一方で、右側の上、10 年後も岩手に住んでいたいかといったところについて見ますと、全体で見ますと、３割強程度の方が住みたい、どちらかといえばそう思うといったことに対して、どちらともいえないといったことが 35.9%ございました。その傾向は、中学から高校に行くにかけて、どちらともいえないというふうにお答えの方がふえてきている傾向

があります。これは、やはり進学、就職を考える中で、現実的な選択が迫られる中で、なかなかそこについてどちらともいえないといった傾向がふえてきている状況もございます。見られます。

その下、10 年後も岩手に住みたいと感じるために重要だと考える項目とすると、上から枠の中にありますけれども、住まい、その周辺環境が快適、仕事、収入、地域の安全性といったものを重視される方々がございます。

先ほど若者部会でございまして、この中でこの 10 年後も住んでいたいかと、もっと言うとずっと岩手に住み続けなければいけないような設問になっていると、むしろ一旦外に出て、大学、専門学校等を経験した後に岩手に戻ってくるといったこともあるので、設問はもしかすると、「も」ではなくて、10 年後岩手に住んでいたいかというふうにすべきではなかったかという御意見を頂戴し、それは全くそのとおりというふうに考えて、これについては、今後アンケートを行う前には修正したいというふうに思っております。

また、その後 10 年後住みたい要因の中で、住まいやその周辺環境が快適といったこと、具体的にはどういうことかといった御質問がございました。これについては、自由記載をアンケートの中でお願いしておりまして、ちょっと資料を取り寄せましたところ、特に公共交通機関が少ない、利用しにくいといった意見、コンビニがない、不便だと、店が少ない、買い物に行くのも大変だといった意見、それから遊ぶ場所、娯楽不足といったところもその周辺環境が快適であるといったところについて御不満といったところで自由意見が出ておりますので、そういったところが重要な要素というふうに中高生の皆さんは考えているといったことでございます。

資料につきまして、少し長くなって恐縮でございます。以上でございます。

○谷藤邦基部会長　実に膨大な資料でございました。委員の皆さんもまだ全部はこなし切れていないのではないかなと思うのですが、ただいま御説明いただいた資料についての質問等あれば発言をお願いしたいと思います。

きょうは、午後に審議会があり、あまり発言時間はないと思うので、早い者勝ちですので、どうぞ御自由に御発言いただければと思います。

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長　事務局のほうから補足でございますけれども、特に午後の総合計画審議会ではこの中間答申案、先ほど概要で御説明しましたけれども、これについて中心に御議論いただきたいと思います。

例えば第２章の強み、弱み、先ほど仕事部会に関するところを御説明いたしました。こういった観点が足りないといった御意見も頂戴できればと思っております。

それから、第３章、基本目標については、復興、幸福、希望郷いわてをテーマに今後基本目標をつくっていきたいというふうに考えておりますので、これらについて、そういった方向でいいといった意見、あるいはこういった観点も加えるべきではないかといった意見も頂戴できればと思います。

また、復興の点、そして８＋１の政策分野について、特に取組の内容について先ほど御説明したところですので、特に仕事部会のほうからこの観点をもっと強めるべきであるとか、加えるべきといった御意見を頂戴できますと、中間答申（案）をまとめる際に大いに

修正をかけることができますので、御意見頂戴できればと思います。よろしくお願いいたします。

○谷藤邦基部会長　黒沢さん、どうぞ。

○黒沢惟人委員　私はもう若者部会をやったので、目がなれているので、先に発言させていただきますので、皆さん考えておいてもらえればなと思います。

資料６のさっきの現在の実感みたいなところがあって、感じる、やや感じるのワーストスリーに挙げられているのが全て教育にかかわるところだなと見ていて、子供のためになる教育が行われていると思っている人は 20％ぐらいしかいない。学習する環境が充実しているのも 20％です。子育てみたいなところで、さっき提示いただいた資料２の教育というところでも一人一人の学力を伸ばす学びを充実しますとか、岩手のキャリア教育方針はという話があって、さきほどの若者部会で千田さんもおっしゃっていただいたのですけれども、進学校はキャリア教育していない、あまり呼ばれないみたいなお話がありました。結構ここが核になるというか、みそなのではないかと思っていて、私も一応そういう進学校と言われるところを出たのですが、偏差値で全部進路が決まりそうなところがあって、大人、経営者の方々と出会うきっかけも大したないままで大学に進学して、私は岩手にいてもそうだったので、ここで県外に出てしまうと大体その接点がないまま就職をする、気がついたら 10 年たって、もう向こうで結婚して家を建ててみたいなことになってしまうかなと思っているので、高校生のところでのキャリア教育みたいなところを実際の現場の先生たちともしっかり議論をしながら、地元学的なものなのか、この後しっかり交流をしながらキャリアというのをちゃんと考えていく、偏差値であなたの進路を決めるのではなくて、そういったことをすることが結果として、この仕事部会にかかわる将来の人材の確保とか定着というところにつながってくるのかなと思っているので、そのあたりは仕事とかキャリア、人材の確保という意味での教育というところのアプローチはもうちょっと必要かなというふうに思っています。

○谷藤邦基部会長　では、千田委員お願いします。

○千田ゆきえ委員　私も若者部会に一緒に出ていたので、意見しやすいです。

今の黒沢さんのお話で、キャリア教育は進学校でやらないと。私は何でですかと聞いたら、先生方が反対すると、なぜかというと、岩手にこういうすごい会社があるのだよとかと言うと、進学しないで就職してしまうから進学率が落ちるのだと、それは親御さんが望むことではないという話なのです。なるほどというところだったのですけれども。ただ、ちょっと盛岡と何だかどこかはちょっと始めたような話は聞きましたけれども、県南のほうはまだまだというところで、そういった要因があるので、教育委員会と県のアクションプランとのすり合わせというか、そういう方向性、一緒のベクトル合わせというのも大事なのではないかなと、あとは先生方の評価が、就職率が高いところはまず就職させればいいみたいな。うちも４月の新卒、１人やめてしまったのですけれども、１週間くらいで。何か合わないとか何とかという話だったのですけれども。その子ももう６月から高校が始

まりますけれども、たしか年明けとかに決まらないと言ってきて、無理やり先生から何とか入れてくれないかみたいなことで入ったのですけれども、御本人がどう思っているのか。とりあえず就職率 100%いう数字だけを求めるみたいなところが先生の評価につながっているところはないかなというところ、そういう根深いところがあるので、掘り下げていって、本当の根っこの部分どうなのだろうなというところをやらないと、抜本的な改革、改善というかにはならないかなと思います。ちょっと補足でした。

○谷藤邦基部会長　ほかにいかがでしょうか。今のことに関連して言うと、岩手は偉人がいっぱい出ているというのですが、そういう教育も小学校単位はやるのですけれども、大概の偉人ってみんな外に出ていって活躍した人たちですね。地元の学校を出て、地元で頑張ったのは宮沢賢治ぐらいしかいないような感じ。だから、実は地元でこんなに頑張っていた、埋もれた人材がいるのだというような発掘がもしできるのであれば、ちょっとやってみる価値はあるのかなと思ったところです。

皆さんのほうから何かございませんでしょうか。林委員、お願いします。

○林晶子委員　資料６のアンケートのところの下のところで、健康・余暇という項目がありまして、この間岩手日報を見たときに、下の第１面のコラムみたいなところに欧米では病院に来た患者さんに処方箋を渡すだけではなくて、あなたはこういうところに行ったほうがいいよという健康増進とか、それから孤独を紛らわせるためとか、そういった精神衛生上などのカルチャースクールとか、そういったようなところを紹介しているということがあって、それによって薬代とか保険代とかが大分下がっているというようなことが書いてあったのです。

日本では、川崎市の井田病院というところが今の取組を始めているという記事があって、うちの娘が住んでいるところのすぐ近くにある病院で、まさか私が視察に行くわけにはいかないのですが、日本でもそういう取組が始まったのだなと思ったので、岩手県は県立病院が非常に多いです。充実していますので、そういう県立病院でそういった動きなどがあったらいいのではないかなというふうに思います。

○谷藤邦基部会長　あとほかに何かございませんでしょうか。あるいは事務局のほうから何かコメント等があれば。

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長　ただいまの健康の関係ですけれども、委員お話しのように、岩手県については県立病院システムがございますので、ネットワークがございますので、これは実は他県に比べると、まさに特異な珍しい県でございまして、これだけ全国最多の県立病院が存在している。つまりそこはネットワーク化できているといったことでございますので、これをもとにして、これからそういう健康増進、例えばビッグデータの活用とか、これはなかなか個人データとの関係があって、直ちには、難しいところがあるのですけれども、国のほうでもそういった動きが出ておりますので、もしもそれが具体化しますと、岩手県の県立病院ネットワークを使った、そういったビッグデータを活用した健康への助言とか、そういうものが可能になってくるというふうに思っております

し、あとそれから企業と、まさに仕事との関係でも健康経営という考え方が大きく動きとして出てきておりますので、その企業様のほうの健康経営とうまくリンクさせるといったこともできるというように思っていますので、これはある意味岩手の強みと、いろいろ民間の病院が大変なこともあるとか、あるいはこれまでの経緯もあって、県立病院というのが出てきているのですけれども、結果としてその強みとして活用していくことが重要というふうに思っております。

これについては、８＋１の政策の柱の中でも取り上げておりますし、今後例えば健康を８＋１の中で最重要というふうに県民の皆さんが思っている健康については、しっかりとした取組を何か構想を打ち立てていく必要があるのかなというふうに事務局としては考えております。

○谷藤邦基部会長　ありがとうございます。

ほかには皆さん、いかがですか。八幡委員お願いします。

○八幡博文委員　特にどの資料に対してどうのこうのという話ではなくて、先般新聞で幸福度の関係の発表があって、各県のランキングがあって、岩手が 31 位ぐらいだったような気がするのですけれども、幸福度合いというのは、要は個人が感じる主観的な部分が結構大きいということもあるのですけれども、あれは一定の指標に基づいて、何々に対しては何、何々に対しては何、トータルで 31 位という、ちょっと私も記憶が曖昧だったのですけれども、どういうふうに捉えるのかというのが１つは大事なのかなというふうに思っていて、そこをちょっと検討して、どういうふうに捉えているのかというのをひとつ聞きたかったのが１つです。

それから、やっぱり一番これから 10 年というと、私がちょうどまだ 65 歳ぐらいなので、そうするとまだ現役で働いている年代、ちょうど私の先の 10 年だなというふうに思ってしまうのですけれども、そのときに一番すごく心配しているのはというのは本当に少子化、超高齢化というところをどう乗り越えていくのかというのは非常に日本全体の課題でもあるし、特に岩手においてもそれが深刻な状況になるのかなというのが非常に心配なので、まずそこをどうやってしのいでいくかということと、それとあわせて、幸福度合いをどうそこにリンクさせていくのかなというのが非常に重要なポイントなのかなというふうに思っています。

そういった意味で、各それぞれの各論をいろいろ議論していかなければならないというふうに思うのですけれども、まずやっぱりそこに少し焦点を当てて考えていく必要があるということからすれば、特に子育てとか家族というのは非常に私は重要なポイントだなというふうに思っています。

子育ての家計状況を心配しないで子育てできるような環境が 10 年後は必要だというふうにアンケートに出ていますけれども、やっぱりその辺を少しポイントにしながらやっていけば一度外に出て、東京に出た方々も岩手に帰れば、子育てしやすい環境が整っているから、やっぱり岩手に戻って暮らそうかと考える方々も少しは出てくるのかなというふうに思っていまして、それがやっぱり大事なポイントかなというふうに思っています。

あと仕事・収入はそれぞれ考えていかなければならないと思うのですけれども、大きな

観点であれば、そこを一つのポイントにしながらやっぱり議論していく必要があって、それが計画にしっかりと盛り込まれるようなものにしていきたいなというのがちょっと私の基本的な考え方です。

以上です。

○谷藤邦基部会長　では、事務局のほうからお願いします。

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長　今八幡委員のお話にありましたけれども、少子高齢化と幸福度というのはまさに何のために幸福度を考えるかというところの重要なところでして、岩手の社会減、転出の８割が 18 歳から 24 歳の若手であると、その人たちが出ていくことによって、結果的に少子化、高齢化も進んでいるといったのが大きな流れになっているかなというふうに思います。

若い人たちが出ていって、子供もその分生まれなくなるといったこともあるかというふうに思っております、大きく申し上げれば。

ですので、やはりそういった人たちが一旦出ても岩手に戻ってきて、そこで仕事をしたり、あるいは暮らしをする、子育てをするといったところで、幸福に思えるような岩手をつくっていくというのが大きく申し上げて重要だと、そのために幸福度を分解してみると 12 の領域がありますと、それらを県民の皆さんは、ここにありますように何が重要かということを考えていらっしゃる。ですので、その幸福度を高め、そして岩手に住んでもらう、あるいは岩手に戻ってきてもらうために、こういった取組を進めましょうというのが次期総合計画の大きな流れですので、まさに委員お話しになっているところが重要なのかなというふうに思っております。

家族、子育て、健康、そしてその背景といいますか、経済的な要因としての仕事・収入、ここも重要といったことでございます。

○谷藤邦基部会長　ほかはいかがでしょうか。森奥委員お願いいたします。

○森奥信孝委員　県内の中高生を対象としたアンケート調査ですが、10 年後も岩手で住み続けたいと感じるために重要だと考える項目で、１番の住まいやその周辺環境が快適であること、希望する仕事があること、必要な収入が得られること、住んでいる地域が安全なこと、などありますが、それぞれの項目についてもっと具体的に調べたらどうでしょうか。

快適な環境づくりのために何が不足しているのか、どの様な環境を望んでいるのか、とか、希望する仕事が地元では見つけられないのか、地元企業の仕事内容を知っているのか、また、必要な収入とは何にどの位必要なのか、住んでいる地域の安全面で何が不安なのか、などを具体的に聞き、自分自身の将来などを考えてもらうことが必要と思います。

また、子育てがしやすいことについて 41％の人しか感じていないようですが、絶対に地元のほうが子育てしやすいと思うのです。正社員であれパートであれ、働きながら安心して子育てが出来る環境は家と職場との距離や通勤時間、地元ということで実家があることも含め地元が絶対に有利であることを学校教育や親が教えるべきと思います。

そして、岩手の 10 年先を考えた時、若者達及び今の中高生達が中心になると思います。

また、今後の人口減少問題を考えた時にも、地元に一人でも多くの高卒者が就職し管内就職率を高めることが大切で、就職希望者はただ目先のことで県外就職を選ぶのではなく、将来を見据えて地元への就職を考えてもらいたい。そのために出来ることや様々な活動、指導や提言、支援などをお願いしたいです。

○谷藤邦基部会長　事務局からお願いします。

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長　この中高生を対象としたアンケートについては、総合計画審議会での御意見を踏まえて、今回初めて取り組んだものでございまして、まだまだ設問等に工夫が必要なところがあるかというふうに思っております。

例えば希望する仕事がある、どういった仕事を希望しているかというような設問まではつくっておりませんで、例えば不満に思っているネガティブな考えを持っている方々がそれいてどのような意見を持っているのかと、仕事関係で持っているのかということをまとめたものがございます。ですので、どういった仕事につきたいかという観点ではちょっと設問になっていないのですけれども、仕事関係は不満に思っている人たちの意見、自由記載の意見とすると、希望する仕事がない、岩手は好きだけれども、ここで働きたいという場所が岩手にない、賃金が低い、つきたい職業が岩手にない、食についても豊かな生活が送れそうにない、賃金が余りにも低い、やりたい仕事が岩手にない、将来都市部で仕事をしたいなどなど、そういった御意見、具体的に何なのかというところについては、今回はちょっとお聞きできておりません。

一方では、もう一つ、資料の６のほうを御覧いただきたいと思います。資料の６は、これは中高生ではなくて、18 歳以上の皆さん、5,000 人を対象にした調査の中ですので、ちょっと若い人たちに限定するのはもう少しクロスで分析する必要があるのですけれども、例えば先ほどのお話の中で 10 ページ、後ろのほうの細かい字のところ、本体といいますか、表がたくさん載っているところの 10 ページを御覧いただきたいのですけれども、ここで森奥委員のほうから前に御意見頂戴した、県内の企業についてどんな意識を持っているのかということについて、ここで調査を行っております。例えば 10 ページの一番下、４―４でございますけれども、県内に本社を持つ企業で知っている数といったものを聞いております。これは中高生に限っておりません。成人の人たちも含めてですので、ちょっとこれはまた別の数字になりますけれども、１社も知らないという方が 14%いらっしゃいました。１、２社、３社から５社あたりを含めて、42%ぐらいといった状況ですので、意外と本社を持つ企業で知っている数が必ずしも多くはないのかもしれません。

それから、次の右側のほうの 11 ページで問の４―５で、現在住んでいる地域の企業に期待するといったところですと、やはり地域の雇用確保でありますとか地域経済の活性化、地域ブランドの創出、新しい産業の創出などについて、企業に期待されている方々が多いといったことでございます。これらにつきましては、また若手の人たちでどう思っているかといったところはさらに分析を進めることで、ちょっと数はサンプル数が小さくはなりますけれども、ある程度の傾向がつかめるかというふうに考えておりますので、これは今後少し分析を進めてまいりたいというふうに思っております。

○谷藤邦基部会長　ありがとうございました。
　五日市委員お願いします。

○五日市知香委員　私は、仕事柄農林水産関係の方たちとかかわることが多いので、その辺の視点からちょっとお話ししたいなと思うのですけれども、今農林水産業って本当に担い手不足で、これ今後 10 年後に果たしてどれぐらいの方が農業をしているのかな、水産業にかかわっているのかなと思っているのですけれども、いろんな取組をされるということで、これは資料２の仕事・収入のところにもいろいろ取組の方向性とかで書かれているのですけれども、もっと若い、今担い手として頑張っている農業者、漁業者さんがなかなか交流をとることができていないのかなと、意外とどこで何を、誰が何しているとよくわかっていない。それから、せっかくいろんな取組をされている方がいるので、市町村だと交流にならないので、県の方の呼びかけとか何かの機会をつくっていただかないと、なかなか交流が持てないのかなというのもあって、それとやはり担い手不足の理由というのはなかなか収入にならないというのがあると思うので、その辺のところで６次産業化とか出てくると思うのですけれども、今６次産業化の最大の課題というのは販路不足だと思うのです。つくることは自分でつくることもできるし、委託もできてという、そういう６次産業化ということは商品をつくることは誰でもできるのですけれども、結局つくった後の売り先がないというので、収入に結びつかないということが全国的に大きな課題になっていると思います。
　その中で、商談会とかをいろいろ販路開拓の商談会とかというふうに書かれているのですけれども、実際の商談会というのは、私が知らないだけかもしれませんけれども、大商談会とかいろいろ県のほうでされている。毎年されているのはあるのですけれども、商談成約率がすごく低いのです。それで、こういう言い方は失礼なのですけれども、毎年同じことをされているのですけれども、何かそれで課題があるのだとか、そういうものの改善とか商談会でもっとこうすれば商談率が上がるのではないかとか、そういうのは全然なくて、毎年とりあえず同じことをやっていて、出てくる企業さんもほぼ同じ、もう少しこの６次産業化に力を入れているのであれば、そういう方たちも出てこられるようなブースをつくってくれたりとか､そういうことをしないと６次産業化というのが結局成立しないし、反応がないとすごく感じます。
　ですから、もうちょっと漁業者とか、農業者さんのもうちょっと交流を持てる場というのがあったらもっといいのかなと思います。

○谷藤邦基部会長　何か事務局からあれば。
　はい。

○照井農林水産部農林水産企画室企画課長　農林企画推進室の照井です。ありがとうございます。
　今担い手対策、若者の就業対策として県でやっているのは、１つは昨年度から林業アカデミーというのを始めております。農業関係は、前にアグリフロンティアスクールというのでやっておりまして、来年度は水産アカデミーが立ち上がっていく方向でございます。

林業アカデミーは、昨年度 15 名の学生さんに入っていただいて、15 名みんな地元の企業に就職いただきました。

それから、今年度はさらに定員を超える応募があって、ちょっといろいろキャパの関係で 18 名に絞ったのですけれども、そういう形で、その卒業生とかのネットワークを大事にしていこうという話が出てきておりまして、単なる学校が終わって就職しました、それで終わりではなくて、そうした人たちはこれから岩手を支える、農林水産業を支える人材になっていくのだろうと、そういうものもフォローしながら、そのアカデミーの運営を考えておりましたので、そういう形で中心になる方が交流できるような形も進めていきたいというふうに思っております。

それから、6 次産業化ですね、五日市先生御専門なので、そのとおりだと思います。特に 6 次産業化、本県におきましては国の調査がございまして、震災前ですと 192 億円ぐらい、6 次産業化としての販売額とはなっていますが、平成 27 年で 298 億円ぐらい。年々ちょっと伸びてはきております。しかし、商談会成約率というのは確かにそんなに高くなくて、シーフードショーとかいろいろマッチングはさせてもらっているのですけれども、すぐその場でマッチングしたのが成約になるというのはなかなかなくて、いろいろやりとりしながら何とか成約に結びついていくということで、時間がちょっと、商談会後にすぐ成約できる形にはなっていないというのがやっぱり実態かなと思っていました。

担当課のほうでも商談会のあり方とか、もう少し成約率を上げるためにどうしたらいいかなど検討しておりますので、いただいた御意見も参考にしながら、今後につなげていければなと思っておりましたので、よろしくお願いします。

○谷藤邦基部会長　五日市委員、どうぞ。

○五日市知香委員　今御説明いただいたのですけれども、林業アカデミーとか、これから水産アカデミー、すごくいい取組だなと思っているのですけれども、実際いわてアグリフロンティアスクールって最近始まったのですかね。

○照井農林水産部農林水産企画室企画課長　アグリフロンティアスクールはもう、何年前ですか、結構前からやっております。

○五日市知香委員　今年度分です。実際すごくいい取組だと思うのですけれども、実際に農業にかかわっている方というのは今の時期ってすごく忙しくて、結構な回数参加されますよね。ですから、実際農業をされている方というのはなかなか参加しにくいと思うのです。

地域おこし協力隊の方と興味ある方が受講されるというのが聞いていたのですけれども、実際農業をなりわいとしている方にとってはちょっと参加しにくいかなと思っています。すごくいい取組だと思うのですけれども。ですから、もうちょっと交流がなかなか持てないと思うので、何か交流を持てる機会、こういうスクール以外のもあったらいいのかななんて思います。

以上です。

○谷藤邦基部会長　事務局は何かありますか。

○照井農林水産部農林水産企画室企画課長　はい。あとは、いろんなネットワークがあって、その中で交流することもありますし、あと女性ですと、ここでいうと３年前に牛飼い女子グループというのを立ち上げて、女性同士のネットワークが非常に強まっておりまして、本年度からはその牛飼い女子を参考にほかの品目とか、あるいは林業関係とかいう形のネットワークも広げたいなと思っていましたので、さっきおっしゃったように市町村単位だとなかなかできないところもあるので、県としても広域な面で交流を図れるような形など引き続き検討してまいりたいと思います。ありがとうございます。

○谷藤邦基部会長　皆さんから一通り御発言いただきまして、最後私のほうから何点かお話しさせていただきたいと思います。

ひとつは資料２、３、４あたりにかかわることなのですが、強み、弱みの分析とか、取組の方向性というあたりで、ＩＴ産業に関する独立した項目がないのです。いろんなところにちりばめては入っているのですけれども、ちょっとそこは物足りない感じがします。

ＩＴに絡めていうと、前回ブロックチェーンという言葉をお話ししたのですけれども、行政系だけではなくて、いろんなところで世界的に物すごい勢いでここの研究が進んでいる状況があります。

例えば資料２の 37 ページの（２）に相当するところ、ここに「ＩｏＴと人工知能（ＡＩ）等」ということで入っているのですが、そこにキーワード的にブロックチェーンも一つ入れていただくことはできないかなと。

ちなみに、アメリカのＩＢＭのＣＥＯもことしの年頭の方針説明で、ＩＢＭはこれから力を入れてくるのが４つあると言って、１つは量子コンピューターなのですが、残り３つがＡＩ、ＩｏＴ、ブロックチェーンだったのです。最近の論調を見ていても、ＡＩ、ＩｏＴ、ブロックチェーンの３点セットで語られ始めている傾向がありますので、ここはぜひキーワードだけでもいいので、入れておいていただきたい。

あとそれに絡めていうと、ＡＩの影響ということですけれども、これは大分前から私はいろんな場で申し上げてきたのですが、ＡＩで仕事が奪われる云々という話の中で、新しい仕事も生まれるから大丈夫だよという議論もあるのですが、新しい仕事が生まれるだろうということについては、私も異論はないです。ただ、ＩＴによって失われる仕事、それから新しく生まれる仕事､それぞれの量と質を全然無視した議論だと私は思っていまして、圧倒的に失われる仕事のほうが多いはずなのです｡そこの危機感をにじませてほしいなと、どこかに。そこを考えていかないと、かなり大変なことになるだろうと思っています。

あともう一つ、少子高齢化ないし人口減少の問題に関連して、労働力が減るという話はある。すなわち生産面、供給側の話はあるのですが、これ実は需要側から見ても消費需要が減るということであって、地域の小売業であるとかサービス業の需要がそのまま人口減とともに減ります。そういったことで地元の産業に対する影響というのは出てくる面もありますので、そこの認識もきちんと持ってもらいたなと思いました。

以上３点というか、４点というか、お願いしたいと思います。

ということで、あと皆さんのほうから何か特にこれだけは言っておきたいことはございますでしょうか。
では、黒沢委員お願いします。

○黒沢惟人委員　ＩＴに絡めてなのですけれども、子育てとか働き方も含めなのですけれども、今県とか各事業所で在宅ワークとかテレワークって実際どうなのかなと思って、進んでいたりするのか、そういう施策があったりするのか、その辺を県だけではなくて、本当は皆さんにもお伺いしたいのですけれども、どうかなと思っているけれども、どうですか、県で把握した感じ。

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長　とりあえず県庁については、試行的にテレワークを始めております。ただ、結果的にはなかなかその分野とか、どういう分野でそのテレワークが可能なのかといったところで、可能な分野はもちろんあると思うのですけれども、そこについてはちょっとまだあくまでも試しで。

○黒沢惟人委員　庁内のどこかの部署でやっているのですか。

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長　そうです。庁内の部署でやっている、どこだったかな、ちょっとあれです。
あと、それから庁内のイントラをモバイル系で見られるような形にしました。メールとか、あるいはいろんなデータやらのアクセス、それはセキュリティー系は確保した上でできるようにしますので、そこはツールとすると改善されてきているのかなというふうには思っております。

○谷藤邦基部会長　よろしいですか。

○黒沢惟人委員　はい、あとは個別に教えていただきます。

○谷藤邦基部会長　それでは、本日の部会における意見交換はここまでとさせていただきまして、ここで一旦部会を休会いたしまして、その間事務局のほうで本日の部会の主な御意見の取りまとめをお願いしたいと思います。
部会再開後、委員の皆様には取りまとめ内容について御確認いただきまして、これは私のほうでこれまでの議論とあわせて、午後の審議会のほうでコメントさせていただくということにしたいと思います。
10 分ぐらい必要ですか。

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長　そうですね、恐れ入ります。

○谷藤邦基部会長　では、今から 10 分間休憩させていただきます。

（休　会）

○谷藤邦基部会長　準備ができたようですので、部会を再開したいと思います。
それでは、事務局のほうから作成した取りまとめ資料の説明をお願いいたします。

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長　事務局のほうで、６点にまとめております。
１つ目は、進学校を含めた高校生へのキャリア教育について盛り込んでおります。特に商工分野の施策と教育委員会の施策、その辺をあわせていくことも重要といった点。
２つ目は、県立病院のネットワークを生かした健康に対する取組、それが重要であると、患者への助言などこういったことへ積極的な内容も盛り込んでいくと。
③といたしまして、これ幸福度と計画の各施策、これをしっかりリンクさせていくと、特に家族、子育て、健康、その他背景にある仕事、収入部分は重要であると。
④といたしまして、アンケートに対する設問の追加といったことで仕事、それから収入はどの程度必要か、安全、子育てがしやすい環境など、これらについてアンケートの中に盛り込むべき。
⑤といたしまして、農林水産業、特に出会い、交流の場、それから６次産業の課題としての販路不足、ここへの工夫が必要であるという点。
最後に、人口減少に対する、これは需要面の影響をしっかり考慮すべき、またブロックチェーンも追加すべき、ＩＴ産業、テレワークに関する取組も追加すべきといったところで、それぞれの御意見も踏まえて書いているという形になりますけれども、以上でございます。

○谷藤邦基部会長　今取りまとめ資料についての説明をいただきましたけれども、あと皆さんのほうで何か追加すべき点等がおありでしたらば御発言いただきたいと思いますが、大体こんなところでよろしいですか。

「異議なし」の声

○谷藤邦基部会長　では、この内容につきまして、午後の総合計画審議会のほうで、私のほうから発表させていただきと思いますので、よろしくお願いいたします。
ということで、次、議事の（３）、その他についてですが、皆さんのほうから御発言等はありますでしょうか。

「なし」の声

○谷藤邦基部会長　特になければ、進行を事務局のほうにお返ししたいと思います。

３　閉　会

○小野政策地域部副部長兼政策推進室長　部会長、議事進行ありがとうございました。
それでは、以上をもちまして、第４回の仕事部会を閉会いたします。この後 12 時から３

階、かきつばたの間でございますけれども、昼食懇談を行いたいと存じます。御出席される委員の皆様は恐れ入りますけれども、事務局のほうで御案内いたしますので、御移動をお願いいたします。

また、昼食の後、13 時から、大ホールが３階になりますけれども、審議会本体を開催いたしますので、これにつきましても出席予定の委員の皆さんにつきましては、御出席のほうをよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。